

AOSSG 活動報告

ASBJ 常勤委員 せきぐち ともかず
関口 智和

1. はじめに

アジア・オセアニア地域の会計基準設定主体においては、2009年11月にアジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）が組成されており、企業会計基準委員会（ASBJ）も2010年9月から2011年11月まで第2代目議長を務める等、その活動に積極的に参画している。2013年11月に開催された第5回年次総会より、香港の会計基準設定主体（HKICPA¹）が議長、韓国会計基準設定主体（KASB）が副議長（任期：2年間）となって活動を行っており、本稿では、主に2015年5月から2015年7月におけるAOSSGの活動について、概要をご紹介します。

2. IASB に対するコメントレターの提出等

AOSSGでは、プロジェクトごとに作業グループ（WG）が組成され、国際会計基準審議会（IASB）に対する意見発信等がされている。2015年5月から2015年7月においては、

IASBより公表された次の公開協議文書に対して、メンバーによる意見を取りまとめてAOSSGとしてコメントレターを提出している。

- (1) 公開草案「負債の分類（IAS第1号の修正案）」（コメント期限：2015年6月10日）
- (2) 公開草案「IFRS第15号の発効日（IFRS第15号の修正案）」（コメント期限：2015年7月3日）

3. ASAF メンバーへの再任と ASAF 会議への対応

IFRS財団がIASBの諮問機関として設置した会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）の会議には、これまで、アジア・オセアニア地域から、ASBJ、中国、オーストラリアに加えて、AOSSGから代表者（AOSSG議長）が出席していた。ASAFメンバーについては、2015年6月に改選がされているが、AOSSGは再任され、第2期ASAFメンバーとなっている。AOSSGでは、ASAFの発足以来、代表者がAOSSGメンバーの見解を適切に発言できるようにするため、ASAFワーキン

1 本稿において、会計基準設定主体の表記は、ASBJ（当委員会）を除き、「国若しくは地域名（会計基準設定主体の略称）」によって記載するか、又は、国若しくは地域名のみを記載している。

グ・パーティー²を組成した上で、事前に意見集約を行うとともに、事後的にも AOSSG メンバーに対するフィードバックを行っている。

2015 年 7 月 16 日から 17 日にかけて開催された ASAF 会議では、保険契約、概念フレームワーク、開示に関する取組み、収益認識ほかが議題となっていたことから、関連する各 WG リーダー³が中心となって WG メンバーの意見を集約し、AOSSG 代表者へのインプットを行った。ASBJ も、概念フレームワーク及び収益認識について WG リーダーとして意見集約等を行った。ASAF 会議の様様については、別稿「2015 年 6 月開催 ASAF 会議報告」(62 頁)をご参照いただきたい。

2 ASAF ワーキング・パーティーは、香港（リーダー）、日本、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、イラク、韓国、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、シンガポールより構成されている。

3 保険契約 WG、概念フレームワーク WG、開示 WG、収益認識 WG、料金規制事業 WG、排出権取引 WG に関する取組み WG 等において、それぞれの WG メンバーの意見集約が行われた。